

一九七七年二月一〇日第三種郵便物認可

発行所〓社会通信社 発行人〓滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話(03)337714649

FAX(03)329915367

振替〓〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金〓中央労金本店No.1154163

購読料〓月額600円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

「戦争」と「統一地方選」

滝野 忠……………2

なぜイラクへの侵略戦争なのか？

富山 栄子……………3

―イラクを訪ねて―

第三回世界社会フォーラムに十万人集まる

佐久間 誠……………5

―新たな一步に手応えズッシリと実感―

虎の尾を避けて……………7

―障害者就労の現場から(その四)―

全通が日通企業の立場で裁判参加の動き……………10

春闘、バス分離撤回、統一自治体選挙闘争に全力を……………11

―〇三春闘をかきたたかう―

一部闘争団切り捨て、ILO勧告履行求める……………13

―国労中央委員会の新たな傾向―

読者からのおたより……………13

旬刊社会通信

NO. 861

二〇〇三年三月一日号

二〇〇三年三月一日発行

(毎月一日・二日・二日三回発行)

「戦争」と「統一地方選」

ブッシュが戦争への道をひた走っている。「戦争」とはなにか。「敵」国をせん滅、武装解除することである。したがって、戦争には「法」など存在することはない。超法規行動である。

戦争は戦闘力、人口と面積をもつ国土、同盟軍からなる。戦闘力は兵士と兵器体系の合力であり、兵士の熟練度、規律そして兵器の優劣が決定的な構成要素となる。ブッシュが「敵」国とするイラクは二千五百万の人口を持ち、イラン、クエート、ヨルダン、シリア、トルコ、アゼルバイジャンと国境を接する。自然条件は山一つない砂漠の国である。

戦争はつねに最悪の事態、総力戦が想定される。味方は一人でも多い方がよいと、仲間づくりが展開される。同盟国である。アメリカは今回の戦争でイラクの全土制圧、サダム・フセインの抹殺と政権転覆を意図。すでにアメリカ、イギリスは戦時体制に突入し、米軍二十万、同盟軍のイギリス四万五千名が配置についている。地上軍の出撃基地はクエート、トルコが予定される。アメリカは周辺国を味方にし、NATO軍と同盟するということである。

アメリカの戦争政策にはころびが目立ってきた。二月一五、一六日の両日、世界中で「イラクへの戦争反対」の集会が開かれ、ベトナム戦争を上回る一千万人が参加した。イラク攻撃の急先鋒であるイギリスでは二百万人、アメリカでも百万人を超える労働者・市民が参加した。アメリカの戦争に反対するドイツ、フランス、さらにはブッシュと共同歩調をとるベルルスコーニのイタリア、アスナールのスペインでも反戦デモは拡大し、ブレア、ベルルスコーニ、アスナールを足元からくずしつつある。さらに「反戦」世論の高まりである。ブッシュの支持率は落ち、ブレアのイギリスでは「戦争反対」が八〇%をはるかにこえる。しかし、背後で石油利権をめぐる秘密外交がおこなわれているだろうことも予想できる。

日本の小泉はといえば、ブッシュへの全面追従だ。国民世論は約八〇%が反対で、国民の意識と小泉のギャップが広まりつつある。自党内からも、小泉のアメリカ一辺倒の姿勢に異論が出てきている。自民党はすでに融解過程に入っており、(1) コメ自由化を焦点とする貿易自由化で農業団体が、(2) 医療費問題では三つの医師会が、(3) 公共事業削減問題では建設・不動産業界が自民党との支持協力関係“見直し”を唱え始めた。そこに、「戦争反対」の世論の急速な高まりである。

可能性として不安も大きい。アメリカは今、一九世紀後半から二〇世紀におこった外交政策である「中南米はアメリカの裏庭」といった安保政策を「全地球がアメリカの裏庭」との考えで実行しようとする。イラクのあとは朝鮮民主主義人民共和国(以下、北朝鮮)というのである。ブッシュは二週間に単独でもイラクに侵攻する。そして、首都バグダットの制圧をめざす。その後、北朝鮮の脅威が大宣伝され、ペルシャ湾、地中海、アラビア海に派遣されている空母群は日本海、東支那海、太平洋に回航される。日本が直接、戦争の脅威に巻き込まれる。この時期は四月の統一地方選の時期。統一地方選は「戦争」という異常な雰囲気の中でたたかわれることになる可能性はきわめて高い。(滝野 忠)

なぜイラクへの侵略戦争なのか？

— イラクを訪ねて —

「石油のための戦争」

クリントン政権はイラクによるクウェート侵攻があったから湾岸戦争を起こしたと説明し、ブッシュ政権は大量破壊兵器の開発とテロ組織アルカイダとの関連を全面攻撃の理由にしている。しかし、元米司法長官ラムゼイ・クラーク氏は、米の覇権確立と主張する。

一九八〇—八八年のイラン・イラク戦争では米軍の湾岸常駐は達成できなかった、九〇—九一年クウェート危機に乗じて常駐体制を作り、欧州・アジア（日本を含む）をおさえて、米の権益確保のためにイラク危機が作り出されていると分析する。

現在、クラーク氏は米反戦運動の市民組織の中心になっている。また国連イラク大量破壊兵器廃棄特別委員会（UNSCOM）・元査察官のスコット・リッター氏はすでにイラクの大量破壊兵器の九〇—九五％は廃棄されたと述べ、米国は現在の査察をちよう報活動を目的に行っているとは批判している。

一方、イラクでは米国および同盟国が仕掛ける戦争を「石油のための戦争」と見ており、正規軍に加わることでできないこともや年寄りまでが「米軍が来たら、抗戦する」としており、自らの領土を守ることに命をかける決意だ。

北部の町モスルでは四日、五〇万人の「アルクドウス部隊」という、アラブ名でエルサレムを呼ぶ市民組織のパレードがあったと報道された。

米軍はもう一つの「ベトナム戦争」に引きずり込まれるつもりなのだろうか。

移住労働者が経済を支える湾岸地域

フィリピンのアロヨ大統領が二月二日、クウェートで働く六万人のフィリピン人労働者を訪問し、「みなさんの生命と給料はわたしが守ります」と述べた。

クウェートの人口約二三〇万人のうち、クウェート人は三六％、八一人（一九二二年以前から居住すると証明できる家族およびその一族）、残りはパレスチナ人、エジプト人、パキスタン人、インド人、スリランカ人、フィリピン人など外国人だ。六一年六月、イギリスの保護領から独立、サバハ家が王族支配する首長国というより、「国旗を揚げた一族経営の石油会社」である（ニューヨーク・タイムズ／九一年四月）。

政党は禁止され、選挙権は一級市民のうち男性だけにある。経済活動は主に二級市民（七級まである）以下の人々が担い、クウェート軍は三級以下の市民の編成だ。

ペルシヤ湾岸はイギリスがスペイン、ポルトガル、オランダを敗退させて、一九世紀に覇権を確立、海軍基地を置いた。第一次大戦後、イギリスはイラクを委任統治領とし、ペルシヤ湾への出口にあるワルバ島、ブビアン島をイラクから切り離しクウェート領とし、保護領にした。季節によって移動する遊牧民、砂あらしによって地勢がかわり、山や川などの自然の境界のないところに住むアラブ人居住地の生活文化を無視して、分断、イギリスは現在のアラブ諸国の国境紛争の種をまいた。

クウェートの気候はか烈だ。真夏の日中は四五度C、直射日光のもとでは七〇度C、冬の今は一〇—一五度Cである。この条件下で米軍は若い兵士を訓練、バグダッドでの市街戦のための演習を行っている。

わたしは昨年一二月にイラクを訪問した。NGOと報道陣からなる三〇人ほどのチーム

であった。目的は九一年戦争で使用された劣化ウラン弾の戦争被害の調査で、病院や大学医学部を訪問して患者たちに会ったり、兵士や戦闘地域の住民に白血病、ガン、こどもの先天性障害など放射能および重金属の化学的毒性が健康被害を引き起こし、土壌、空気、川・湖水、地下水を汚染しているという状況を実際に見ることだった。

イラクの地政学的位置

イラクは昔、メソポタミアと呼ばれ、「文明のゆりかご」であった。チグリス・ユーフラテス川は豊かな水をたたえ、一万年前から人々は農業・牧畜を行い、都市国家が成立していた。高校の先生が一学期に話してくれたことだ。

紀元前五〇〇年にすでにくさび形文字で「ギルガメシュ叙事詩」が書かれ、紀元前二六〇〇年には「ハムラビ法典」という法律までできていた。陸路、海路による通商の道は早くから発達し、地中海からインドや中国と交流、文物の商取引が行われていた。アラブ、ペルシャ、モンゴル、トルコなどさまざまな民族が次から次へと国家を建てて支配し、また衰亡した。現在、ペルシャ湾岸に南アジア出身の人々が住んでいるのは不思議ではない。無数の船乗りシンドバッドがいたし、空飛ぶじゅうたんは中国までも行つたのだ。英語の *serendipity* は「思いがけない幸運」という意味だが、*serendipity* とは「セイロン（スリランカ）」のアラビア名である。ギリシャ文明にも影響を与え、マケドニアのアレクサンダー大王はバビロンに陣取ってインド遠征に出かけ、その後、この地で病死した。

現在、国連の経済制裁措置のためバグダッドにはシリアか、ヨルダン以外からしか入国できない。輸出品目の石油さえも輸出制限されている。わたしたち一行はヨルダンのアンマンから、バグダッドまで九二〇キロメートルをバスで走った。砂漠、牧草地、農耕地、町、現代的都市と風景はさまざまに変わったが、タンクローリー専用道路と送電線がずっと続いていた。

与党バアス党はアラブ民族主義と社会主義を掲げる政党で、医療費は無料、最低限の食料は配給され、飢え死にする人はいないということだった。しかし、九一年以降の経済制裁は人々の暮らし、とりわけ医療において悲惨な結果を引き起こしている。最新の情報・技術交流、医薬品・機器のスムーズな輸入ができないために、患者に適切な手術を施したり、適切な薬の投与ができないのだ。

二月三日に発表された米政府の〇四年度の予算案で、財政赤字は九二年度の記録二九〇億ドルを上回る三〇四億ドルで過去最大、ブッシュ政権は其中で軍拡路線を継続するが、イラク戦争の経費は別枠、日本など同盟国が負担する。五〇〇億ドルと試算されている（朝日新聞二月四日）。

米政府・軍は劣化ウラン弾の使用と「湾岸戦争症候群」との関連を認めないが、湾岸戦争退役兵士一六万一〇〇〇人が健康を理由に、米政府から傷病手当を受けている。イラクだけでなく、米国内に大量の戦争犠牲者がいる。

さらにイラク攻撃を指揮する中央軍フランクス司令官が職権乱用、公私混合行為で内部調査を受けていると報道された。

戦争反対の国際世論、同盟国政府の足並みの乱れ、パウエル国務長官の説得力のない証拠の提出、これらの事実を踏み倒して、政権転覆のために全面攻撃を始めた場合、影響は世界中に広がり、戦争がイラクで終わることはないだろう。

（富山 栄子）

第三回世界社会フォーラムに十万人集まる

—新たな一步に手応えブツシリと実感—

国際連帯の力で

一月二三日から二九日までブラジル・ポルトアレグレ市で開かれた第三回世界社会フォーラムに参加した。

世界社会フォーラムは二〇〇一年一月に新自由主義のグローバリゼーションへ異議を唱え、批判を加える人々がブラジル南部の都市ポルトアレグレ市に集まった事に始まる。新自由主義が世界各地で生み出す不正や不平等、破綻に抗議し、世界をより人間的かつ連帯的なものとしていくために、新たな理論と実践の枠組みを示すことを目的とし、世界を事実上統治する機構の首脳会議に対抗し開かれている。

私自身、海外は初めての体験であり、当初参加の打診があったときは「なんでブラジルまで・地球の裏側じゃあないか。帰ってこれるの？」との思いもあり、加えて「英語も話せないのに」との思いで躊躇もあった。

しかし、常づね抱いていた問題意識として、グローバリゼーション下で日本の多国籍企業群がどんどん海外へ進出し利潤をむさぼり、進出先の地域経済圏を次つぎと破壊しており、一方、国内では、産業が空洞化し失業者が職を求めてあえいでいる現実がある。

国内の労働運動はそうした資本の攻勢に抵抗し切れないでいる。世界の資本間の競争に太刀打ちできない—こんな企業の理屈で労働者は賃金切り下げに甘んじ、首は切られ放題。労働運動の力は削がれ、なし崩し改憲を狙う戦争協力法案のキナ臭い動きは急速に強まっている。

こうした動きに対抗する運動づくりが急務ではないか？ 新自由主義に抵抗する世界的な連帯運動が不可欠であり、悪さをする企業はどここの国にあっても逃げ場のない状況にしなければいけない—こんな、思いと合致した。加えて、現在闘いを進めている一〇四七名の解雇撤回闘争の勝利解決を図るための新たな切り口を国際連帯の力の中に見いだしたいと決意し、アタックジャパンの参加の誘いを受ける事にした。

【注 ※アタックⅡ市民のために金融投機に課税を求めるアソシエーション（結社）略】

ポルトアレグレそしてアタックジャパン

アタックジャパンとしての参加は、日本から七名、現地で三名の通訳の方と合流し、十名。その他の団体からは、ピースボートのメンバーが五十名、全労連の方と報道の方の二名、そしてであろうことかJR総連が独自に別だてで六名ほど来ていた。（JR総連は、退職強要容疑で逮捕された七名の組合員の釈放を求めアピールしていたもよう）

私たち七名は、成田からロサンゼルス、サンパウロを経由し、二四時間の空の旅を経て開催地のポルトアレグレ市に到着した。

革新市政だというポルトアレグレ市は、街の環境整備もされ、治安も周辺の都市と比較して良い。通訳の方に教えていただいた事だが、ブラジルに移住した日本人は実直でまじめだということと尊敬され、信用されており、反日感情はここでは全くないとの事に安心。先人の労苦に感謝した。

通貨はレアル。一レアル三〇円程度。ポルトアレグレでの物価は日本の三分の一ほど。公務員の賃金で一カ月五〇〇レアル程度とか。季節はちょうど夏の終わりということであったが、日差しが強く、日中は三十度位になるが夜になると涼しくなる。陽は長く夜八時

頃になってようやく暗くなるため、時間の感覚がなくなってしまふ。ふと時計を見て「もうこんな時間」と驚くこともしばしばだった。

「対イラク戦争」に厳しい批判

第三回世界社会フォーラムには、一五六カ国から十万人が参加し、新自由主義のグローバルイズムに抵抗する戦略目標を掲げ、世界的な結集を見せた。正直なところ、三年前からの試みとは思えぬ各種団体や世界の人々の結集と勢いは圧巻そのものであった。

中東における米国の対イラク戦争反対の運動とイスラエルの対パレスチナ平定問題など、緊急の課題に対する危機感も多くの人々の結集の要因だったのではないか。各種集会では米国のイラク攻撃に反対するアピールがされるとき大きな拍手が起きていた。

世界社会フォーラムの平和会議では、米国への厳しい批判一色となり、戦争と自由貿易協定への反対の決議では、「米国はその意志を力で押しつけ始めた。・世界に新たな冷戦気運を植えつけようとしている」と批判し、「国連の役割は決定的に地に墜ち、資本家の権力機構やほとんどの国家政府は、米国に国家テロの執行者としての恒久的役割を委ねた」との宣言にも見る事ができる。

国鉄闘争を訴え

私たちが宿泊したのはメイン会場から二十分ほど離れた市内のモーターホテルと言ってもビジネスホテルなんだろうと思っていたが、ラブホテルで私たち（ポルトガル語通訳の神戸保さんと同室。おかげでいろいろ現地の事を教えていただいた）の宿泊した部屋はちなみに鏡の間。十二畳に六畳、シャワー室、サウナ室と空間に恵まれた。十万人も一都市に押し寄せる中で、ホテルに泊まれない人も大勢おり、ラッキーだったと言われた。

着いてすぐ、オープニングのデモ（新聞発表で七万人）に参加したが、人の渦と勢いに圧倒されながら市内四〜五キロのコースを練り歩いた。移住された日本の皆さんの現地での評判を裏づけけるかのように、「国鉄闘争共闘会議」のぼり旗なびく所は漢字も珍しい事もあり好評で、「何て書いてあるのか?」「ジャポウン? チャイナ?」と尋ねられ、たびたび足を止められ、一緒に参加した「電通労組」「郵政ユニオン」と共に、至るところでカメラの被写体に納まった。

今回参加するにあたり、一〇四七名の不当解雇に抗議し早期に当事者の求める解決を図るよう、小泉首相宛の抗議ハガキと国鉄闘争の状況報告のチラシ（英語・ポルトガル語翻訳のもの）をアタックジャパンの協力を得て準備して行った。

フォーラム開催期間中、数多くのセミナーや集会があちこちで開かれているのだが、私は二日目に開かれたアタックジャパンのセミナーと、四日目に開かれたアタックの世界総会で発言の機会を得て、国鉄分割民営化で不当解雇をされた一〇四七名の問題について闘争の経過や現状について訴え、小泉首相への抗議ハガキ投函の要請を行なう事ができた。

また、一緒に日本から参加した仲間や、現地合流の通訳の方たちの協力も得てキャンペーンも行ない、持参した五〇〇枚の要請チラシやハガキは瞬間に世界の人たちの手に渡った。

回収したハガキは二九カ国三〇〇枚を越え、初期の目標を大きく上回る事ができた。

（私は不勉強で横文字の人たちの事は良く分からないが、世界的に著名な運動家の方々にも直に協力をいただいた）。どれだけ集め切ることができるか不安があったが、予想以上

の成果にうれしさもひとしお。さつそくメイン会場となった大学構内近くの郵便局から投函することができ、ホッと一息つくことができた。投函されたハガキは一週間ほどで届くことから、世界の人々からの抗議のハガキに小泉首相も仰天していることだろう。

今回、参加にあたって「国労冬物語」の英語版、CD、そして国労の闘いを十五分ものにまとめたビデオ（十五本）を支援の皆さんがカンパで作成し持たせていただいた。

これらも世界各国で活躍する名だたる方々に手渡すことができ、今後各地で上映されることになる。また、インターネットなどで国労闘争団の闘いを宣伝してくれると言っていた方々や、今後の運動に力を貸してくれるとの激励もいただいた。今後の運動展開で大きな力になることは確実だ。

日本の資本は世界各国に進出し、それらが進出先の企業を潰し、経済を破壊し労働条件の悪化や解雇を生み出しており、日本から参加したメンバーの今回の主題である「公共サービス」の防衛、民営化反対の一つとして訴えた十七年目になる国労闘争団の闘いは注目を集めたと思う。

世界に活路を求め、新たな運動展開の契機に結びつく一歩を踏み出した手応えをズツシリと感じたブラジル訪問であった。

最後に、今回の参加にあたり、多くの仲間の皆さんからあたたかいカンパと激励をお寄せいただいた事に心から感謝したい。

(二〇〇三年二月・佐久間 誠)

虎の尾を避けて

— 障害者就労の現場から(その四) —

雇用流動化のなかで・・・

雇用流動化はパート・派遣労働者一五〇〇万人（うち派遣労働者一七五万人。厚労省発表）時代を迎えた。これに、契約社員や嘱託社員と呼ばれる非正規身分の労働者を加えると、一七〇〇万人を越える推定値もある。これは、雇用労働者約五〇〇〇万人に対し、三・四・〇%を示し、実に労働者の三人に一人は非正規身分の労働者ということになる。しかし、ここに日雇労働者や外国人労働者、アルバイトを加えた非正規身分の労働者の実態は、正確に把握されていない。

こうした雇用流動化は、就労現場の中でさまざまな矛盾を生み出し、労働者間の対立や労働弱者への苛（いじ）めの温床となっている。その一端をわたしの職場を例に報告したい。

嘱託社員とは・・・

昔、嘱託社員といえば、功績のあった社員を、定年後もその技術や情報が必要とする職場で、継続雇用する場合の雇用形態であったように思っている。現在、こういう雇用は非常勤や顧問と名称を変え、多くは、障害者雇用法の普及によって、法的枠内雇用の障害者に対して「嘱託社員」の名称は使われている例が一般的である。

このような嘱託社員の処遇は、定時間拘束、単純軽作業（労働）が主で、身分の変更や昇進は一切ない。賃金は最高年収で四〇〇万円（含む一時金）を超える場合は、特殊な仕事とかよほどの技術がないとあり得ない。賃金形態は本給と残業手当でだけで、扶養手当や住宅手当など一切支給されないのが通例である。もちろん、定年時の退職金の支給などはない。企業の規模や業績によって、慶弔規定や共済制度への加入、昼食手当、企業年金

制度の若干のお恵みはある。

子どもが生まれた・・・

あるとき、障害者の仲間から電話があつた。「男の子が生まれました。で、扶養手当を支給して欲しいと人事にいったんですよ。しかし、会社の制度では難しいといわれ、息子の将来の教育資金を少しでも蓄えようと、アルバイトをさせて下さいといったのですが、認められないの一点張りで・・・」「どうしたいのですか？」「扶養手当を支給かアルバイトを認めて欲しい・・・」「わたしの面談の折り、話しても良いけれど、あなたのことがすぐバレますよ。良いですか・・・」「・・・」

人事部面接の日が来た。人事担当者と課長が相手である。「わたし達嘱託社員は、住宅手当や扶養手当など、正社員に支給されている手当の支給がありませんが・・・」「会社は、現在、福利厚生の見直し中で、可能なことから手直しし、例えば、企業年金制度については全員に、共済制度については、希望者から適用しています」「企業年金制度は会社と従業員が折半で金を出し合い、共済制度も掛け金を払っているではないですか。住宅手当や扶養手当はどうなんですか？」「皆さんご両親とご一緒か、公的（県営や市営）住宅にお住まいで、特に、住宅手当を必要としないかと判断しています」「扶養手当はどうなんですか？」「・・・」

「例えばですね。わたし達の妻子と親、正社員の妻子と親にどんな違いがありますか？」「それは・・・」「何ですか？」「それは・・・」「いや、会社の制度としては考えていませんので・・・」「考える気持ちはありますか？」「・・・」「ないんですね。では申し上げますが、わたし達の妻子や親は何の値打ちもなく、会社としては福利厚生の対象とは考えていないと・・・」「いや、そういう意味では・・・」「でも、考える必要はないんでしょう？」「・・・」「はつきり申し上げておきますが、これは差別です」「いや、そういう捉え方はしないで戴きたい・・・」「なら、考えますか？」「・・・」

この結果を本人に連絡した。「そうですね？」「これ以上のことは、従業員組合に相談するしかないでしょう」「でも、従業員組合は正社員だけの組合で、嘱託は加入資格がないと会社は契約書に書いてるし・・・」「でも、それはおかしいんですよ。ほかに相談のつてくれるのは、地域ユニオンがあります・・・。あなたがキチンと気持ちを持たなければ、申し訳ないけれど、これ以上のことは、わたしにはできません」「でも・・・」これで話は終わっている。

わたしの仕事がない・・・

ある日の夕方、いつも通勤で使う駅のホームに独りの女性がわたしを待っていた。「今日、落ち込んだじゃって・・・」「どうしたの？」「わたし決まった仕事がなくって、決まったパソコンもなくって・・・。それで、今日は派遣さんに意地悪されて・・・」彼女は目頭を押さえた。こんな例はたくさんある。わたしも経験した。Aさん、Bさん、Cさんの顔が浮かぶ。電車が来て二人で乗り込んだ。

「具体的に・・・」「わたし入ったときからズーツと、決まった仕事がなくて、会社には仕事をしに来てるから、部長や課長にいうんですよ。そのときだけは、少しだけ仕事をくれるんですけど、終わってまたお願いに行くんですよ。そうすると一般職の正社員（女性）が、陰に呼んで、あなたは手の障害で、何をさせても時間がかかるから、仕事を任せ

られないのよ。部長や課長にあなたが（仕事下さい）っていうと、わたしが何もさせてないみたいじゃないの。派遣さんの仕事が少し混んでるから、その中から、あなたの仕事をもらうからっていつてくれたんです」

「仕事もらえたの？」「はい。でも、その後で、二人が話しているのが聞こえたんです」「何を？」「何をさせても時間が掛かる。仕事もないのに会社に来るだけで給料をもらえらる良い身分だって・・・」自分の麻痺した手を叩きながら、涙をポロポとこぼした。「辛いね。悔しいね。でも、辞めちゃあダメだよ。辛いけど逃げちゃあ負けだよ。ぼくにも経験あるからさあ。一ヶ月時間頂戴。人事に話すから」

彼女の相談の数日後、若い下肢障害の男性から内線が掛かった。「入社以来、ぼくには専用の端末がありません。業務時間の入力や会社の共有情報、保養所の申込みなど、何時も、課の共用端末を使うんです。でも、これも、最近、派遣さんが使っていて困っています」との内容。「どうしますか？ 近いうちに人事の面談があるけど・・・」「えっ。本当ですか？」「ぼくは入社して五年、契約更改のときしか面談ないですけど・・・」「ぼくは年に二、三回ガス抜き面談があるよ。君から人事に面談申し込むと良いよ」「人事、怖いなあ」「虎の尾っぽを踏まなければ大丈夫。これ位のこと、クビにはしないよ。勇気を持って、人事面談を申し込んだら・・・」「やってみようかなあ」「気持ちが決まったら連絡頂戴」数日が流れて内線が掛かった。

「人事に話したら、すぐ端末用意しますって・・・」この話を彼女にメールする。「良かったですね」の返事。「どうしますか？ あなたも自分で面談申込みますか？」と問うと、「わたし仕事できないから・・・」との返事。「分かりました。ぼくの面談の日がきまつたので、その時話しましょう」

人事の面談当日。「わたし達嘱託社員も、会社の重要な戦力として雇用しているんですよねえ？」「そうですが・・・」「会社の共有情報は、社員共通に知る必要がありますよねえ？」「その通りです」「社員一人に端末一台が社長の方針と受け賜っていますか？」「そうです」「では伺いますが、大事な戦力に仕事が与えられない。あるいは、派遣さんから仕事を分けてもらうとどうなりますか？」「ええっ・・・」「実態ご存じではないのですか？」「もう少し詳しく・・・」

「わたしの知る限り、決まった仕事もなく、毎日出勤して辛い思いをしている人が、数名います。専用端末がなく、業務時間の入力ができない人も数名います。こういう状態の放置は、苛めと差別の温床になります。現に苦しんでいる人がいますよ。こんなとき、未端の一般職や酷いときは派遣社員が露骨な苛めと差別をやっています」「そんなことは・・・」「知らなかったとはいわせませんよ。会社が怠慢だから、障害者への苛めと差別がはびこるんですよ」「分かりました。キチンと対応させて載きます」ほどなく全社部長会が招集され、人事担当者から内線が掛かった。緊急面談の申し入れである。

やれば出来る

指定の場所に駆けつけると、「各部長に聞いたところ、仰った通りの例が数例ありました」「それでどうなさるんですか？」「決まった仕事がない人の場合は、部長がその人の障害と能力を考慮のうえ、わたし達もサポートしますが・・・キチンと対応します」「対応しますというの、決まった仕事を与えるということですね」「そうです」「雑用だけでなく、と受け取って良いですか」「申し訳ないことをしました」「パソコンのことはどうなります」「二人一台の社長方針を実行するということで、標準端末を五〇台購入手配しまし

た」「五〇人もいたのですか?」「いや、専用端末がなかった人はそんなにはいませんが、この際、部や課で必要との申請もあって、五〇台手配しました」「そうですか。会社もやれば出来るじゃあないですか?」「恥ずかしいですが・・・。」「最近、会社も苛め差別については敏感になりましたねえ」「それは、提案して戴いた障害者に対する人権尊重の啓発運動のおかげです」「でも、三年前にお願ひしたわたし達への扶養手当など、処遇の案件の見直しの進捗については、まだ進んでいませんね」「それは、その・・・。」「今は良いですよ。そのための面談ではないですから・・・。」と席を立った。

数日後、彼女から内線が届いた。「専用端末が届きました。決まった仕事ももらえました。そのとき部長が、ご免なさいっていつてくれて・・・。」涙声になった。「良かった。頑張ろうね」受話器を置くときうつむいた拍子に涙が机にこぼれた。

闘いの方程式

入社して一〇年を超えた。わたしの労働者生活で一番長い就労である。しかし、辛い思いを何度もした。苛め差別もあった。悔しくて眠れない夜もあった。苦しくて叫びたいときもあった。でも、耐えた。一五の歳から働いて、もっと酷い苛めもあったじゃあないか。もっと悩んだ差別もあったじゃあないか。それを肥やしに生きてきた。それをきつかけに世の中の仕組みを学んだ。そして闘うことを、闘わなければ自分を守れないことも知った。

闘いには決まった方程式がある訳ではない。会社の考え方、人事担当者の考え方、相手の力と自分や仲間の力と知恵が、解決の方向を決めるのだ。労働組合があれば逃がさない問題でも、組合がないいま、常に着地点を考えながら面談に応じている。相手の眼を見ながら退却もする。歯痒い。悔しい。でも、こうした積み重ねのなかから、新しい芽も見え始めた。少しの変化が自信になっている。例えば改善される事柄もはつきり分かった。受けた相談は、本人の気持ちを確かめて、闘い方を考える。成果は、どんな小さなことでも本人の頑張りを讃える。失敗は相手と良く考える。そして、少し前に出る。

遅々として進まない闘いではあるけれど、いまは、蝸牛の歩みしかできない。虎の尾を踏むわけにはいかないのだから・・・。(花開くこともない末端労働者 神奈川)

全通が日通企業の立場で裁判参加の動き

二〇〇二年一〇月二十九日、第三回地本代表者会議において、許せない文書が配布された。労働条件の不利益変更で、年間一〇〇万円からの被害を受けた。その労働協約は、正式な手続きを踏んでいないから無効だとして、近畿の日通労働者が訴訟を起こした。

これに対し、日通企業は中心的争点が労働協約を締結するまでの組合内部の手続きが争点になっているから、会社としては、その手続きを立証していく手段がないと、全通に対して「訴訟告知」をしたいと申し入れてきた。

全通は一〇月二一日に中央執行委員会を開いて「...昨年四月から改正施行した新労働協約の無効を訴えている今回の事例に対して、以下の理由で今回の「訴訟告知」を受けて、「補助参加」で対応していくことを確認しました。...後略」

全通は、第三者機関での争いを放棄したのではなかったか。そして、第三者機関での争いを組織で起こしたら統制処分するのではなかったか。

会社側に立っては裁判に参加すると言うのでは言語道断だ。日通企業の労働者も全通組合員なんだぞ。

春闘、バス分離撤回、統一自治体選挙闘争に全力を

—〇三春闘をかくだたかう—

新自由主義の嵐の中で

二〇〇三年、厳しい不況が克服されず、資本主義経済は混迷を深め、日本での失業率は過去最悪の五・五%、三七〇万人の完全失業者を生み出しています。

処理してもいぜんと不良債権は拡大し続け、血税である公的資金の銀行投入は砂に水を撒くような状態ですが、職場に働く者には犠牲が強いられる一方で、競争力を失った企業は冷酷に倒産させられ、ここでもその犠牲は労働者にしわ寄せされています。トヨタに代表される巨大企業（多国籍企業）を除けば、大多数の会社、ことに中小零細企業の倒産、失業、そして労働条件の切り下げが当たり前になっています。

雇用、賃金、社会保障などの改悪による生活の不安は、勤労者を消費抑制、貯蓄（限られているが）に向かわせ、景気はひとつもよくならず、消費も回復しません。さらに、不安定雇用の拡大は急速に進行し、この四年間で正社員一七〇万人減、パート労働者二〇〇万人増という数字が物語っています。

新自由主義政策とは、利潤追求のために規制をいっさい取り払い国内のみならず世界を駆けめぐり、体制の維持・延命をかけ国家の壁を越えた資本主義の新しい運動です。

働く者が社会の主人公であるはずなのに、この新たな運動により、企業の生産活動は海外にシフト（グローバル経済化）し、国内の産業の空洞化、失業、消費活動の停滞など、デフレスパイラルと言われる悪循環のつけを賃下げや首切り、出向・配転、消費税率のアップ、健保・医療・税制改悪など、政府・財界がごぞつて大合理化を勤労者に押し付けてきています。むき出しの競争原理、何でもありの社会が続いています。

もちろん、そんな中でも労働運動の再構築のために苦闘を続けている組合はありますが、きわめて少数になっています。労働者・市民の抵抗が弱いために、日本の支配者である財界（日本経団連）と政府自民党は、かつてない横暴かつ反動性を強め、働く者の首切りが自由にしかも簡単にでき、もし経営者が裁判で負けてもわずかな額で金銭解決ができるよう「解雇ルール」法を作ろうとしています。

そのうえ、小泉政権は消費税の一六%までの引き上げ、イラク戦争への参戦を前提に昨年十二月、突如としてイージス艦の派遣を決め、インド洋・アラビア海に向けて出航させました。米のブッシュ政権の言いなりになり、民衆を戦争に引き込む「有事法制」の策動を許す訳にはいきません。とりわけ戦後、不戦、非武装を誓った憲法第九条を手つけようとしており、憲法改悪を許さないために各地区で結成されてきている「憲法を活かす会」や「反失業・反首切り・反合理化千葉県共闘会議」への加入や結成により、反戦・平和を求めめる大衆行動のノロシを上げることが重要です。

経済の混迷や矛盾の深化、働く者への犠牲や生活苦を作り出しているのは、資本主義経済の矛盾が原因であり、政治の流れを国民の側に引き戻し、働く者の立場に立った政党・議員を選び勝利させるために、今年四月執行の統一自治体選挙に全力を上げましょう。

団結の広がり

〇三春闘はすでにスタートしています。連合は昨年十一月の委員会で、今春闘の方針として「景気低迷の中で雇用維持を理由に、二年連続ベアゼロ」を決めました。

かろうじて私鉄一三〇〇円、日産一〇〇〇円、UIゼンセン五〇〇円のベア要求以外、他産別ではほとんど聞かれません。これに答えるかのように経営者たちは、春闘解体論を唱え、さらに「定昇凍結、見直し論、雇用維持の代わりに賃下げ」と、春闘の争点を「賃下げ」に置く姿勢を打ち出しました。

この総額人件費の削減は、「企業経営が大変」という一般論ではなく、賃下げによる原資を企業競争力強化のための設備投資や研究開発費に回すという意図を持ち、政府が税制改革の中で投資減税を据えているのは、財界の要請に応えたものです。

あらためて、賃金とは何か、労働組合の存在価値とは何なのか問われています。赤字だろうが黒字だろうが、賃金は労働力の再生産費であり、当たり前前の要求です。

この当たり前前の要求を実現していくためには、職場から春闘を闘っていく態勢作りが求められ、学習、交流、各種集会を積極的に進めていかなければなりません。

バス部門の分離攻撃は、昨年八月、いったん棚上げしたものの「分離に拘らない方策を労使で協議していく」との一項が取り付けられ正念場を迎えています。時代のすう勢、回りの状況ではなく、京成労組の組織問題として、三支部一体で問う体制が求められています。

資本主義社会が続く限り合理化は止むことはありません。つねに二つの目的を意識し、一つは要求の獲得や合理化の阻止を目指す闘いです。そしてもう一つの目的は、その個々の闘いに組合員が参加し具体的な闘いの経験を通じて、一人ひとりの組合員が「労働者の立場での物の見方、考え方」に立ち、会社側の攻撃に対し労働組合の一員として自主的、主体的に反撃の行動に立ち上がる団結の広がりを作ることです。

厳しい情勢の中で問われていることは、一人ひとりの反合研の仲間が、自らの頭で考え全体で意思統一を取りながら行動する主体性が求められています。当面する春闘、統一自治体選挙勝利に向けて頑張りましょう。

当面の方針

一、〇三春闘、統一自治体選の勝利に向けて

①京成労組の組織強化

- ・ 総連・京成労組の諸活動、とくに京成労働学校、うたごえ集会、決起集会など、職場の組合員と共に結集を。
- ・ 各職場班は、所属分会の方針作り、分会機関の様々な活動に主体的に関わり、職場組織の強化を。

・ 職場での春闘学習会作りを。

②自動車部門の分離化攻撃の撤回

- ・ 本部を支える職場態勢の強化を。
- ・ 三支部一体で、闘う態勢の維持・強化に向け、あらゆる交流を。

③統一自治体選挙闘争の勝利

- ・ 京成労組組織内議員、推せん議員をはじめ新社会党議員の拡大と前進を。
 - ・ そのために、各選体への結集、支持者カード集め、「週刊新社会」購読者の拡大を。
- 二、産業別統一闘争・企業を越えた闘いの強化に向けて

①私鉄反合研会議の開催を。

②他労組の職場と分会機関での交流を。

③企業を越えた交流・共闘を。

三、主体性の強化に向けて

①組織の基本である各職場班会議の定例開催と全班員の結集の努力を。

③班方針を確立し、春闘、選挙など具体的な闘いを通し反合研会員のリストアップ・拡大を。
(私鉄京成反合研)

一部闘争団切り捨て、ILO勧告履行求める

— 国労中央委員会の新たな傾向 —

国労は二月一五日、中央委員会を開いた。この中央委員会の焦点は、四党合意が政府・与党から破棄されたという新たな段階で、国労がどのような方針を提案するかにあった。

方針案のポイントは三つであったように思われる。

一つは、方針案、委員長あいさつで明らかにしたが、「二百名を超える闘争団や家族」との表現で、鉄建公団訴訟をおこなっている闘争団員を事実上切り捨てる方向に大きく舵を切ったことである。

二つは、単一体から連合体への組織改編に歩を進めようとしていることである。方針案には、「組織に展望をもたせ運動が前進でき得るために国労の組織をあらゆる角度から組合員全体で討議を行うことが重要」、「JR各社採用者をはじめ組織拡大運動が取り組みやすく、復帰者にも理解しやすい組織が重要」と述べられるとともに、「闘争団組織の整備」がいられている。

三つは、「(四党合意破棄で)政治解決基盤はなくなり、早期解決をはかるための手段は喪失した」との認識のもと、「新たな状況に応じた組織・闘争体制を見直し、組織と運動に展望を見出すことが重要」と①ILO闘争の強化、②ILO連絡会の拡大・大衆闘争強化、③議員・政党要請、④闘争団の生活体制強化などを闘いの柱にする。

なお二月一四日おこなわれたILO連絡会（ILO勧告に基づくJR不採用事件の公正な裁判を求める連絡会）結成集会には自治労、日教組が来ひんあいさつ。基調講演で中山和久（早稲田大学元教授）氏は、①一〇四七人問題の根っ子は政令二〇一、②政令二〇一（一九四七年体制）をひっくり返す集会と述べた。

◇ 読者からのおたより ◇

あやつり人形 今春は地方統一選挙の年、八年前に私たちも支持した北海道知事「堀たつや」さんは、四年前の選挙で自民党に支持されてしまい、どんどん離れていき、今回はその堀さん、なんと自民党から離党届けをつきつけられ、自ら家を出るに至っているようです。自民党は帯広市長と同じように、中央の人を祭り上げ意のままに動かそうとしているのでしょうか。
(帯広・M)

編集部より 自民党はとにかく丈夫な胃の腑をもっている。多少の時間をかけてなんでも飲み込み、消化してしまいます。しかし、その自民もあまりにも強い消化液に、みずから解けて去ろうとしているのが現状です。

太田幸一推せん決定 政党と選挙闘争では、今年が「統一地方選」の年。小泉政権の反動化と経済失政を止め、護憲と国民本位の政治をめざす。深川（北海道）市議会議員選挙においては、国労深川地区協議会として太田幸一候補を推せんし、国鉄闘争をはじめとして人権擁護、反差別闘争の前進、労働者・高齢者・地域住民の要求の前進をうたっている。
(国労深川闘争団)

編集部より 太田さん立候補ですか。いいですね。何が何でも勝って！

「生きるNo.6」 「人権と共生の世紀」といわれた二一世紀。「テロ」「戦争」が吹き荒れ、「生命」「権利」「環境」がどんどん悪化しています。今一度、歴史から学ばねばなりません。国民、働く者、人民はどう生きてきたのでしょうか。どうして戦争を止められなかったのでしょうか。差別と戦争をなくすためにどんな闘いと生き方をしてきたのでしょうか。今回は「特集 思い出の人々」を組みました。特集外も含めて「歴史と先輩から学ぶ」内容となっています。
(奈良・T)

編集部より お申し込み先は奈良市古市町一八四六一三二 寺脇暢子方 いのちと平和を考える

会 頒価四〇〇円十送料。FAX〇七四二一七一—二〇八八です。

田中哲朗コンサートに感動 元国労の活動家で職場闘争で解雇された我が身にとつて国労闘争団の仲間のことは一日とて思わぬ日はありません。貴誌がいつも闘争団のことに配慮して頂いていることに敬意をもつて読ませていただいています。

過日、映画「国労冬物語」上映と同時に催された田中哲朗コンサート(ライブ)を聞かせていただきました。きびしい闘いをしていっている国労闘争団ではありますが、この田中哲朗氏の闘いの根気と勇気にはまったく学びたいと皆さんの教訓があると感銘しました。沖電気で首切り反対闘争をすべしと組合役員に立候補したことを理由に配転攻撃を受け、これを拒否しこれを理由に解雇され、その日から会社の門前でギター片手に歌を(二三年間?)歌いながら抗議を続けている彼の姿に、私は本当の労働者魂を見る思いがします。今の労働組合には不当な首切りに対してはどこまでもその不当性を追及していく構えが不足しています。「首を切られずによかった、これからは首切られた人みたくないことはしよう」となつて労働組合はほとんど抵抗と闘いを放棄してしまつたような気がします。

編集部より 田中哲朗さんをお願ひします。田中哲朗さんを取材しそして記事にして下さい。彼の闘う姿は、きつと歯をくいしばつて闘う労働者を奮い立たせてくれるものと私は確信いたします。(福島・T) 編集部より 私も田中さんのコンサートなんか拝聴。沖電気争議時代からのことです。Tさんのご提案いただきます。

子供を戦争から守るために 最近の選挙の投票結果をみると、無党派といわれる国民が半数をこえ、投票率が五〇パーセントと低迷し、有権者総数に対する実質得票率は二〇パーセント台。このような有権者の意識をつくつたのは、さまざまな疑獄に現れているように、政治家や官僚が私腹を肥やすためにのみ政治を利用する彼らの姿だつたのでは。このような国民の政治への無関心をたくみに利用して政治と高級官僚は憲法改悪に向け、着々と戦争ができる国づくりを進めています。すでにインド洋に派遣されたイージス艦は、戦争状態におかれていともいわれています。今、戦争の緊急事態に対処するため有事法制と戦後民主教育を愛国心教育に変えるための二つの大きな出来事が起ころうとしています。その上に立つて平和憲法を変えようとしています。今、政治にあきらめをもつことはたいへん危険です。あきらめず、有権者としての権利を行使しましょう。(大分・K) 編集部より こんな集会、テーマでの学習会がふえています。私も年明け後、なんか所かに参加。

戦争の原理を考へるにはクラウゼビッツの「戦争論」(岩波文庫三巻)が参考になります。ひろんでたまるか 先日、広教組(広島県教組)の全支区代表者会議がありました。テーマは「人事管理システムにおける人事評価制度の問題と今後のとりくみ」。一言で言えば今まで以上に学校に管理を持ち込み、教職員を分断する差別主義のより強化としかいようがありません。教職員間に競争原理を持ち込み、主任制をより強め、管理職だけに媚びへつらうことを強要するものではないありません。これまでに以上に教職員を子どもたちから遠ざけ、対子どもの視点ではなく、学校の売名行為、校長間の競争の先兵にしていくものでしかありません。とりわけ今年度モデル校として指定された現場からの報告です。悲鳴に近いものでした。(広島・N) 編集部より 「晨星」、楽しく読ませていただきます。工夫つくされていらつしやるようで、「通信」の参考になります。感謝。

その時 国敗れ 石もてルソン 追われけり(廣司・昭和二十一年一月一日) その時PWの胃袋は空っぽでした。当時、皇軍と米比軍との為替レートは寄せ書きのある日の丸と食パン二斤、将校の階級章一組と板チョコ一枚でした。日の丸を食べた人がまだ元気です。(熱海・武井廣司) 編集部より 武井さんも日の丸を食べ延びられたというわけですね。当時の思い寄せていただければ嬉しい。我がつれ合いの父は海軍の陸戦隊のこと。九〇歳です。(北海道・K) 編集部より 報告寄せていただければ嬉しい。我が母は昨年の特養、つれ合いの父は老健でのシヨートステイ、デイケア、訪問看護、ホームヘルプサービスなど介護問題が日常となりました。

もぎとる 激論は 悪政退治 雪しまき もぎとるう政わが手に春の激 何とかしなくちゃーの思ひしきり。(松江・H) 編集部より 「雪しまき」、どういう意味なのかと考えております。ご教示を。

問題意識 周辺の問題意識、私も、もつと高めねば。江戸川堤を歩きながら。(千葉・H) 編集部より 時代がすっかり変わり、従来の習慣は通用しなくなつてますものね。

闘う労働組合をつくる 春闘には賃上げ要求はなく、賃下げの傾向も出てきている状況。労働条件向上の要求はあつてもほとんど勝ち取れず働く者の健康が蝕まれています。それでも「働ける所があるだけで恵まれて」と主張する経営者に立ち向かうことが出来なくなつていきます。今年こそは少しでも働く者が立ち上がつても闘つていける運動作りが本場に必要ではないか。(北海道・O) 編集部より 労働者はどこのどこの労働者。「たちがらなくては、生きていけない時代」の到来。労働組合は労資の対立から自然発生的に生まれました。新たな労働組合の誕生は必至です。